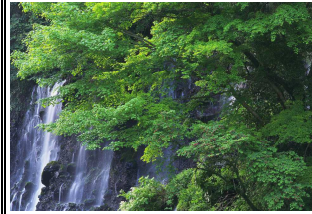


# 少年

第482号(1) 令和8年5月発行



山 梨 県 警 察 本 部  
生活安全部 人身安全・少年課  
甲 府 市 丸 の 内 1 - 6 - 1  
055-221-0110 内線 3082  
少 年 対 策 官 西 川 卓

## やる気を取り戻す～初心～

新年度が始まり、新しい環境や出会いなどに胸を躍らせていた四月から、早くも一ヶ月が過ぎようとしています。最初の頃は、誰もが新しい生活に緊張しながらも「今年度こそ頑張ろう」「新しい自分になろう」と前向きな気持ちを抱いていたはず。新しい教室、新しい仲間、新しい先生。すべてが新鮮で、少し背伸びをしながら日々を過ごしていたことと思います。

しかし、時間がたつにつれて、人は環境に慣れていきます。「慣れ」自体は悪いことではありませんが、その一方で、最初に抱いていた意欲や緊張感が少しずつ薄れてしまいます。気付けば、当たり前のように過ごしている毎日の中で、最初の「やる気」や「丁寧さ」が少しずつ失われていきます。これは子どもだけでなく、大人にも共通する自然な変化です。だからこそ、今の時期に一度立ち止まり、自分がどんな気持ちで新年度を迎えたのかを思い返すことが大切になります。

慣れは人間関係にも影響を与えます。出会ったばかりの頃は、誰に対しても丁寧に接し、相手の気持ちを考えながら言葉を選んでいたはず。しかし、関係が深まるにつれて、つい言葉が雑になったり、相手への配慮を忘れてしまったりすることがあります。そんなときこそ「初心」に立ち返る必要があります。相手を大切に作る姿勢を思い出し、思いやりのある行動を心がけることで、周囲との関係はより良いものになり、自分自身の心も豊かになります。初心を思い返すことは、やる気を取り戻すだけでなく、人とのつながりを見つめ直すきっかけにもなるのです。

初心を保ち続けることは簡単ではありません。特に子どもたちは、日々の変化や人間関係の中で気持ちが揺れ動きやすいものです。だからこそ、周りの大人が励まし、支え、見守ることが欠かせません。声かけの方法として「しっかり」「ちゃんと」などの曖昧なものではなく「こうしたらもっと良くなる」など具体的な指示を出したり、「ここまでやってみよう」と子どもの能力に合わせてハードルを下げたり、小さいことでも褒めることで、子どもたちの「やる気」を引き出すことができます。

年齢や立場に関わらず、最初に抱いた思いを胸に、これからの毎日を有意義なものにしていきたいものです。

## 「考える」ことをやめない～AIとの付き合い方～

近年、レポート作成や調べ学習の場面で、インターネット検索やAIを利用する機会が増えてきました。必要な情報をすぐに手に入れたり、文章を形にまとめたりするAIは、とても便利で心強い道具です。こうした技術を上手に活用することで、学習の幅が広がり、理解を深める助けにもなります。しかし、その便利さ故に、気をつけねばならない点もあります。検索結果やAIで生成した文章を意味も理解しないまま使うと自分の考える力が育ちません。本来であれば、自分の頭で整理し、自分の言葉で表現することで身につくはずの力が、知らない内に弱くなってしまいます。

AIは「考えることを代わりにやってくれる存在」ではなく、「考える手伝いをしてくれる存在」です。AIが出した結果をそのまま受け取るのではなく、「これは本当に正しいのか」など検討しつつ、「自分の考え」を必ず入れるべきだと思います。

今、人間が作った文章とAIの作った文章の区別が付きにくい時代になりつつあります。子どもの個性が失われないよう、周囲の大人が「考えることの素晴らしさ」について声をかけ続けることが大切です。本物を見極める力と本物の価値の高さを語り続けてほしいと思います。

# 「非行少年を生まない社会づくり」の推進


非行少年の背景には、「少年自身の規範意識の低下やコミュニケーション能力の不足」「家庭や地域社会の教育機能の低下」「少年が自分の居場所を見出せず、孤立し、あるいは疎外感を抱いている状況」等が見られています。こうした問題の解決に関しては、社会全体で取り組む必要があります。警察では、少年サポートセンターを設置し、少年補導職員を中心に総合的な非行防止対策を行っています。警察署の少年部門とともに次代を担う少年の健全育成を図るため、次の2本柱を中心に「非行少年を生まない社会づくり」を推進しています。

## ① 少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動

警察が、悩みや問題などを抱えている少年やその家庭からの SOS を待つのではなく、積極的に連絡をし、必要に応じて支援を申し出ます。支援を求める少年については、教育委員会、学校、就労支援機関等の関係機関やボランティア等とも連携し、「定期的な連絡・相談、家族への助言」「就学・就労に向けた支援」「少年が参加する社会奉仕体験活動・生産体験活動等の機会の供与」を行い、立ち直り支援活動を行います。具体的な活動として、山梨県教育委員会特別支援教育・児童生徒支援課が行っている事業「スマイルサポートプロジェクト」を紹介します。

悩みや問題を抱えている子どもを支援します

子どもが  
深夜に出かける…




# スマイルサポート プロジェクトとは？

山梨県教育委員会と山梨県警察が連携して、  
問題傾向を抱えた子ども、また将来が心配な子どもが  
より良い成長をしていくための立ち直り支援をする事業です。

通称  
スマサポ

困ったな？  
どうしよう…



### ◆ どんな子どもを支援してくれるの？

対象年齢は、概ね中学生から  
20歳に達するまでの少年です。

支援対象は、非行、犯罪行為(家出や深夜徘徊・家庭内暴力・SNSやゲーム依存の問題行動などに起因)に走った子どもを対象にしています。子どもやその保護者が支援を希望しており、**立ち直る意思**を示すことから始まります。



※家庭裁判所係属中または保護処分中の少年を除く

### ◆ スマサポで行う4本柱

- ①**体験活動**:年間を通して、農業、スポーツ、物作り等様々な体験活動を通して社会性、創造性を見いだすきっかけを作り出していきます。親子での参加も可能ですから、子どもと共に体験活動に参加することで、家庭内のコミュニケーションの場としても利用できます。
- ②**学習支援**:スタッフがそれぞれの子どもの悩みや課題、また、進路・学力に応じて、学ぶきっかけを掴めるよう働きかけていきます。
- ③**就労支援**:「どんな仕事をしたいのかわからない」「1人だと中々動けない」「働きたいけど就職活動の方法がわからない」といった悩みを抱えている子どもに面接の練習や職業体験、相談機関への同伴といったサポートを行います。
- ④**家庭支援**:子どもと保護者がより良い方向に向かっていけるよう、保護者と面接をしたり定期的な連絡を取り合う等、連携を深めていきます。また、状況によっては様々な関係機関とも連携し、今後の支援について助言していきます。



子どもの問題傾向や心配事でお悩みの方はお電話ください

☎ 055-223-1357

山梨県少年サポートネット 推進事業  
事務局:山梨県教育委員会特別支援教育・児童生徒支援課

## ② 少年を見守る社会気運の醸成

社会全体として、少年の特性や非行に走る要因・背景等について理解を深め、少年が孤立し非行に走ることを防ぐ。

- 地域の非行情勢や非行要因などについての幅広い情報発信活動
  - 少年警察ボランティアなどを中心とした積極的な少年への声かけやあいさつ運動
  - 少年の社会奉仕体験活動、スポーツ活動などの場、機会の拡大
  - 低年齢少年やその保護者を対象とした非行防止教室の開催
- 等を通して地域社会の絆を強化し、地域に受け入れられ見守られていると実感できるようにします。